

## 2023年 湯村温泉と山陰旅行

右城 猛

### まえがき

新型コロナウイルス感染症がわが国で騒がれ出して3年が経った。1日の感染者数が1万1394人の過去最高を記録した第8波は、昨年11月22日をピークに収束傾向にある。

政府は令和5年1月27日より、イベント会場の収容率を上限50%としていた制限を撤廃した。また、3月13日からは「マスク着用は個人の判断に委ねる」ことになり、5月8日から5類感染症として位置づけられることになった。

新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことで、これまで自粛されてきた旅行が一気に活発化し、インバウンドもコロナ前の状態に戻りつつあるようである。

高野広茂夫妻が1泊2日の温泉旅行を企画してくれたが、どこの温泉宿も満室状態になっており、予約ができたのは湯村温泉の「佳泉郷井づつや」のみであったようである。

旅行に参加したのは、高野広茂・いくよ夫妻、宮地勝美・満理子夫妻、西野精晃・桂夫妻と私たち夫婦の8名である。

3月18日9時30分に岡豊苑に集合し、高野広茂会長が岡豊苑内に整備している防災訓練センターを見学させていただいた後、10時過ぎに竹内達夫氏が運転する土電ハイヤーのジャンボタクシーで岡豊苑を出発した。

### 但馬大仏長楽寺

最初の見学先は、兵庫県美方郡香美町にある高野山真言宗の長楽寺。天平年間(729年ころ)に行基が開創し、行基が自ら本尊の薬師瑠璃光如来を彫刻して安置されたとされている<sup>やくしるりこうにょらい</sup>霊験著しい歴史ある寺である。

昭和61年には相互タクシー株式会社の創業者多田清翁が二百数十億円を寄贈し、7年の歳月をかけて三大仏を安置した大仏殿を建立している。



高野山真言宗 川会山 長楽寺



入母屋造の但馬大仏長楽寺の大門。



大門には高さ8.2mの阿形像<sup>あぎょう</sup>と8.4mの吽形像<sup>うんぎょう</sup>の仁王像が守門神として猛々しい形相で向かい合って立っている。



五重塔と大仏殿。境内の日陰には積雪が残っていた。



大仏殿の中には、向かって左から<sup>あみだにょらい</sup>阿弥陀如来、<sup>しやかにょらい</sup>釈迦如来、薬師如来、の木造大仏3体が安置されている。中国の仏師述べ2万人が3年の歳月をかけて製作したもので、<sup>くまざい</sup>樟材の寄せ木作りに132万枚の金箔が貼られている。



高さ70mの日本第二位の高さを誇る五重塔



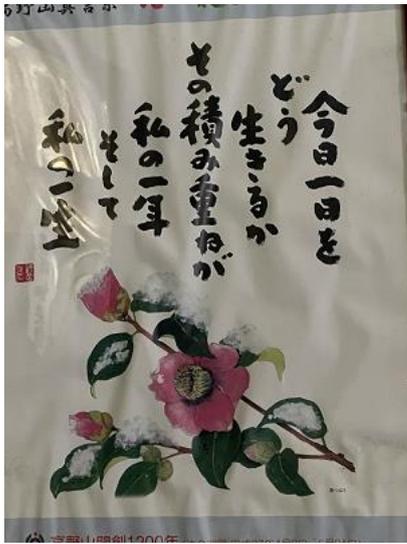
大仏殿の壁面には、大理石造の千体仏が安置されている。石仏を奉納された人には石仏の下に氏名が明記される。安置されている石仏のほとんどに名前が入っていなかった。



間口55m、奥行36m、高さ40mの大仏殿



石仏を奉納するには一体 50 万円のお布施が必要。



大仏殿の壁面には所々に高野山真言宗「花と小さいのち」伝道ポスターが飾られていた。ポスターには心に響く言葉が書かれていた。

この世には 十人十色の 生き方がある  
相手を認めて生きれば 楽になる

人は苦しんだだけ 強くなる  
人は悲しんだだけ 優しくなる  
人は苦労しただけ 成長する

いろんなことを乗り越えて  
二人が築いた人生が  
小さな屋根の下にある

今日一日をどう生きるか  
その積み重ねが私の一年  
そして私の一生

## 湯村温泉

湯村温泉は、848 年に慈覚大師によって発見されたと伝えられている古湯である。岸田川の支流、春来川のほとりにあり、日本屈指の高熱温泉が沸いている。元湯は「荒湯」と呼ばれ 98 度の高温温泉が毎分 470 リットルも湧出している。



98 度の湯が沸き出している荒湯



湯壺の温度は 90 度以上あり、温泉卵をゆでることができる。



有名人の手形



「河川敷一体には常時高温の温泉が湧出しているので立入には十分注意して下さい」と書いた看板があったが、川の水は冷たかった。川から湯気も出ていない。



夢千代の銅像。



吉永小百合の手形

湯村温泉は、早坂暁著の『夢千代日記』の舞台になったことで一躍有名になった温泉地である。

胎内被爆者として生まれた夢千代(本名は永井左千子)が、白血病と闘いながら湯の里で芸者置屋を経営している所へ吹き寄せられた人々の織りなす、悲しくて切なくしみじみとした人間模様を描いた作品が『夢千代日記』である。

昭和 55 年に「夢千代日記」、56 年には「続夢千代日記」、58 年には「新夢千代日記」が、それぞれ吉永小百合主演により NHK テレビドラマ人間模様として放送されている。また、昭和 60 年には吉永小百合主演の東映映画、三田佳子主演の新橋演舞場での舞台公演が行われている。

銅像の側には「夢千代日記」に出演した俳優の手形がブロンズ鑄造にして飾られていた。

## 佳泉郷 井づつや

「井づつや」は、創業 90 年の歴史を誇り、第 125 代明仁天皇陛下・美智子皇后様もお泊まりになられた格式高い四つ星ホテルである。

総料理長は井上明彦氏。平成 10 年にはテレビ番組「料理の鉄人」に出演し、陳建一と対決している。平成 12 年にはテレビ番組「五カ国対抗料理人選手権」で優勝している。

また、平成 21 年には全国技能グランプリ日本料理部門第 1 位厚生労働大臣表彰、令和元年には黄綬褒賞を受賞されている。

内閣総理大臣安倍晋三の氏名と角印が入った立派な賞状が地下 1 階の廊下の壁に飾られていた。



正面の高い建物が井づつや



井づつやの正面入り口



地下1階 青柳の間で会食



井上明彦総料理長が青柳の間まで来て但馬牛の鉄板焼き



9時過ぎに井づつやを出発。ホテルの入り口で記念撮影

## 鳥取砂丘の「砂の美術館」

2022年7月30日から2024年1月3日の期間、第14期展示「砂で世界旅行・エジプト編」が開催されていることをネットで知った。

2022年5月7日に家族で来たときは休館になっていた。砂像彫刻家はほとんどが外国人で、コロナの影響で入国できないため。こんな所にもコロナの影響が出ているのかと驚いたことであった。

砂の美術館では、砂像彫刻家・茶園勝彦氏ちやえんを総合プロデューサーとして、アメリカ、リトアニア、カナダ、オランダ、ラトビア、チェコ、ロシア、イタリア、ポーランド、スペイン、アイルランド出身の彫刻家20人が、砂で世界旅行をコンセプトとに毎年テーマを替えて展示を行っている。2022年がエジプトの独立100年とツタンカーメン王の墓の発掘100年の節目に当たることから、テーマが「エジプト」となっている。



展示会場の様子



「ナポレオンのエジプト遠征とロゼッタストーンの発見」の前の高野広茂・いくよご夫妻



カイロのバザールの様子



ツタンカーメン王の墓の発掘



アブ・シンベル大神殿



ミイラと来世信仰

## 鳥取港海鮮市場「かろいち」

昼食場所としてドライバーの竹内さんが案内してくれたのが、鳥取港海鮮市場であった。千代川の左岸側に位置し、すぐ西隣に鳥取空港がある。

食事は海鮮市場の中にある「お食事処いか太郎」に入り、全員が丼物を注文する。イカ丼やモサエビ丼が人気のようであった。モサエビ(猛者エビ)は鳥取県の名称であり、正式名称はクロザコエビ。

生で醤油を付けて食べられるというので買うことにした。同じサイズであるにも関わらず一匹300円、150円、80円と3種類あった。係の者に聞くと鮮度の違いとのこと。今夜、生で食べるには150円の方が良いと勧められたので、それを10匹買う。300円の方は少し置かないと美味しくないとのことであった。

松葉ガニも売られていた。この活松葉ガニは最高級品が1枚3万5千円であった。



鳥取港海鮮市場の中の様子



活モサエビ



1枚3万5千円の松葉ガニ

砂の美術館に来る前に寄った「マル海渡辺水産」では、1kg超が2万5千円であった。それからすれば1.5~2kgくらいはあるのだろう。値段があまりにも高いのに驚いた。

甲羅に「カニビル」と呼ばれる黒いブツブツがたくさん着いている。カニビルとは寄生虫の卵囊らんのおうのこと。カニビルが付着したブツブツが多いほど脱皮した後の期間が長く身が詰まっており、美味しいようである。

カニは「1匹」または「1杯」と数えるものと思っていた。しかし、松葉ガニは「1枚」と数えるようである。

## あとがき

旅行期間中、二日とも天気恵まれた。初日は雨が心配されたが傘を差すことはなかった。二日目は絶好の旅行日和であった。

ジャンボタクシーに乗って和菓子「栗柿」や高級みかん「せとか」などを食べながら歓談し、ホテルでは黄綬褒章受章者・井上明彦総料理長が作った松葉ガニと但馬牛を使った贅沢な料理に舌鼓を鳴らし、夜は高野ご夫妻、宮地ご夫妻と私たち夫婦が一つの部屋に布団を並べて寝た。

学生時代の修学旅行のような思い出に残る楽しい旅行であった。

高野ご夫妻をはじめ、ご一緒した皆様に心から感謝申し上げます。

## 【付録】多田清(1905-1991)について

二百数十億円の私財を投じて但馬大仏・長楽寺を築造し、寄贈した人物が居たことを知って驚くと共に、その人物に興味を持った。

多田清は、明治38年に福井県勝山市の裕福な庄屋の息子として生まれたが、子供の頃に家が没落。丁稚として働き始め様々な職業に就く。26歳の時タクシー運転手からタクシー会社の経営に着手。持って生まれた経営の才によって業績を伸ばした。

昭和40年代には車両保有台数1000車を越える関西一のタクシー会社に成長。タクシー業界のドンとして君臨し「多田天皇」とまで呼ばれるようになる。オイルショックや不況もその天才的な経営手腕で乗り越え、一代で巨万の富を築きあげた。

晩年になり、「今の自分があるのは世間の人びとに迷惑をかけ借金をしてきたから」と「人生借金返済論」を述べ、慈善事業や寄付に熱を入れた。

昭和62年には総工費380億円で越前大仏・清大寺を建造している。大仏殿は間口58×奥行き48×高さ52mの鉄筋コンクリート造り。大仏は奈良の大仏を上回る大きさで、座像としては日本最大。大仏殿の隣には日本一高い高さ75mの五重塔も建造している。

平成4年には、5重6階地下1階RC構造の勝山城博物館(越前勝山城)を建立し、勝山市に寄贈している。

但馬大仏・長楽寺は平成6年に建造している。



【2023年3月20日記】